

# 高校生が講師を務める電波教室の開催

東海総合通信局(局長 北林大昌)は、愛知県電波適正利用推進員協議会と共催で、8月20日(土)、学校法人名古屋工業高等学校(名古屋市昭和区)において電波教室を開催しました。

本教室には、講師として名古屋工業高等学校の高校生7名、近郊の中学生5名、小学生4名及びその保護者5名が参加しました。

総務省では、電波の適正な利用に関する周知・啓発活動として、電波の仕組みや身近な電波の利用について興味を持ち、電波の正しいルールについて楽しく学んでもらうことを目的に、電波教室を開催しています。特に東海総合通信局独自の取り組みとして、高校生が講師役を務める新たな電波教室を実施しており、講師役の高校生には電波に関する知識の向上、講師として教えることの体験学習、地域社会活動への参加などが期待されます。

当日の電波教室では、電波の性質やどのように利用されているかを分かりやすく説明したDVDを視聴しました。続いて、電波適正利用推進員(以下「推進員」)からラジオの仕組み等について講義を実施しました。その後、高校生が進行役となって電波に関するクイズを出題し、子供達は楽しく電波に関する理解を深めました。

実際に手を動かすラジオ製作では、高校生と推進員のサポートにより小中学生がプリント基板に電子部品を半田付けし、完成したラジオから音声がかげこえた際には会場に歓声があがりました。

参加した小中学生からは、「クイズや動画で楽しく電波について学ぶことができた。ラジオ作りも高校生が教えてくれたのでうまくできた」、講師を務めた高校生からは、「小中学生に教えるのは難しかったが、ラジオができあがったときの喜びが伝わり嬉しかった」との感想が寄せられ、大変有意義な活動となりました。

また、保護者からは、「高校生の皆さんがとても親切で、良い活動だと感じた」との感想が寄せられました。

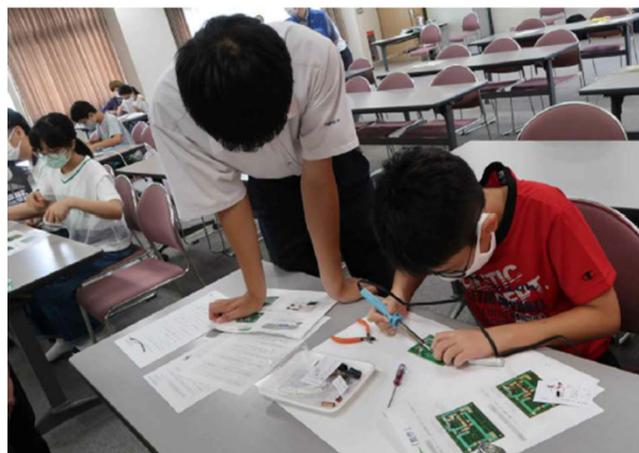
最後に、参加者は、思い出の自作ラジオと共に記念撮影をして、電波教室は終了しました。



ラジオの仕組み講義



電波って、なあ〜に？(三択クイズ)



ラジオ製作



電波教室の修了後の記念撮影